

Ⅱ 調査結果の概要

注) 文中において、「前期」「今期」「来期」については、特に説明がない限り、以下の時期である。

- 前期 平成28年 7月～平成28年 12月期
- 今期 平成29年 1月～平成29年 6月期
- 来期 平成29年 7月～平成29年 12月期

1. 景況天気図

【業況判断(全体)】

	H29年1~3月期(実績)	H29年4~6月期(実績)	H29年7~9月期(見込み)	H29年10~12月期(見通し)
全体				
BSI	(▲23.6)	(▲23.0)	(▲22.6)	(▲22.8)

【従業者規模別】

	H29年1~3月期(実績)	H29年4~6月期(実績)	H29年7~9月期(見込み)	H29年10~12月期(見通し)
4人以下				
BSI	(▲42.6)	(▲35.5)	(▲39.0)	(▲41.8)
5人~19人				
BSI	(▲22.4)	(▲22.4)	(▲20.9)	(▲17.3)
20人以上				
BSI	(▲9.4)	(▲13.5)	(▲11.1)	(▲12.3)

【業種別】

	H29年1~3月期(実績)	H29年4~6月期(実績)	H29年7~9月期(見込み)	H29年10~12月期(見通し)
製造業計				
BSI	(▲18.1)	(▲16.0)	(▲18.5)	(▲19.3)
非製造業計				
BSI	(▲25.1)	(▲25.0)	(▲23.8)	(▲23.8)
建設業				
BSI	(▲26.2)	(▲30.0)	(▲25.7)	(▲28.5)
運輸・通信業				
BSI	(▲11.0)	(▲17.5)	(▲19.7)	(▲12.5)
卸・小売業				
BSI	(▲39.3)	(▲36.1)	(▲29.0)	(▲31.0)
飲食・宿泊業				
BSI	(▲34.5)	(▲30.9)	(▲28.3)	(▲31.9)
サービス業				
BSI	(▲18.1)	(▲14.1)	(▲18.6)	(▲17.2)

【凡例】

天気マーク						
BSI水準	(30.1~)	(10.1~30.0)	(▲10.0~10.0)	(▲10.1~▲30.0)	(▲30.1~▲50.0)	(▲50.1~)
矢印マーク						
BSI前期比	10ポイント以上増加	10ポイント以上減少				

2. 調査結果の総括

新潟市内事業所の「業況判断」について、平成29年1～3月期は28年10～12月期から悪化したが、続く29年4～6月期は同1～3月期とほぼ同水準で推移した。足元の29年7～9月期は同4～6月期とほぼ同水準となる見込みであり、先行きの同10～12月期もほぼ同水準で推移する見通しとなっている。

今期における他の主要項目のBSIをみると、「生産・売上」はほぼ同水準で推移したが、「受注」、「出荷量」は上昇した。「資金繰り」もほぼ同水準で推移し、在庫では「製・商品在庫」、「原材料在庫」がともにほぼ同水準の推移となった。価格では「仕入価格」と「販売価格」がともに上昇した。雇用では「所定外労働時間」、「一人当たり人件費」がともに低下した。

経営上の問題については、「人材不足」の割合が最も高く、以下「生産・受注・売上げ不振」、「労働力不足」、「競争の激化」と続いている。

業界の動向としては、東京オリンピック関連事業により、業況の改善を期待する声がある一方、原材料等の仕入価格上昇、人手不足や人件費の高止まりにより、採算性の悪化を懸念する声や後継者の育成に苦戦する声も多数聞かれた。

3. 新潟市景況調査結果(BSI)の総括表

1. 業況 P. 12～	<ul style="list-style-type: none"> 29年1～3月期の業況感を示した業況BSI(「良い」-「悪い」)は▲23.6と、28年10～12月期の▲22.3から1.3ポイント悪化した。続く29年4～6月期は▲23.0と、同1～3月期とほぼ同水準で推移した。 足元の29年7～9月期は▲22.6となり、29年4～6月期とほぼ同水準で推移する見込みであり、先行きの29年10～12月期も▲22.8と、同7～9月期とほぼ同水準で推移する見通しとなっている。
2. 生産・売上 P. 20～	<ul style="list-style-type: none"> 今期の生産・売上BSI(「増加」-「減少」)は▲16.3と、前期(▲16.7)とほぼ同水準であった。来期は▲13.3と、今期から3.0ポイント上昇する見込みとなっている。
3. 受注 (製造業・建設業のみ) P. 25～	<ul style="list-style-type: none"> 今期の受注BSI(「増加」-「減少」)は▲14.7と、前期(▲23.7)から9.0ポイント上昇した。来期は▲19.2と、今期から4.5ポイント低下する見込みとなっている。
4. 出荷 (製造業のみ) P. 28～	<ul style="list-style-type: none"> 今期の出荷量BSI(「増加」-「減少」)は▲10.9と、前期(▲16.9)から6.0ポイント上昇した。来期は▲13.0と、今期から2.1ポイント低下する見込みとなっている。 今期の出荷額BSI(「増加」-「減少」)は▲11.0と、前期(▲16.5)から5.5ポイント上昇した。来期は▲11.8と、今期とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。
5. 在庫水準 (原材料在庫は製造業のみ) P. 33～	<ul style="list-style-type: none"> 今期の製・商品在庫BSI(「過剰」-「不足」)は1.3と、前期(1.7)とほぼ同水準で推移した。来期については▲0.3と、今期から1.6ポイント低下し、過剰から不足に転じる見込みとなっている。 今期の原材料在庫BSI(「過剰」-「不足」)は2.1と、前期(1.7)とほぼ同水準で推移した。来期も1.7と、ほぼ同水準で推移し、過剰が続く見込みとなっている。
6. 価格 P. 41～	<ul style="list-style-type: none"> 今期の仕入価格BSI(「上昇」-「低下」)は15.8と、前期(14.2)から1.6ポイント上昇した。来期については16.9と、今期からさらに1.1ポイント上昇する見込みとなっている。 今期の販売価格BSI(「上昇」-「低下」)は▲7.9と、前期(▲9.0)から1.1ポイント上昇した。来期は▲6.8と、今期からさらに1.1ポイント上昇する見込みとなっている。
7. 資金繰り P. 51～	<ul style="list-style-type: none"> 今期の資金繰りBSI(「好転」-「悪化」)は▲12.9と、前期(▲13.1)とほぼ同水準で推移した。来期は▲11.6と、今期から1.3ポイント改善する見込みとなっている。

<p>8. 雇用 P. 56～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 29年度の雇用BSI(正社員の数) (「増加」－「減少」)は1.7と、28年度(▲1.0)から2.7ポイント上昇し、マイナスからプラスに転じる見込みとなっている。30年度は4.4と、今期からさらに2.7ポイント上昇する見通しとなっている。 29年度の臨時・パート社員等の雇用BSI(「増加」－「減少」)は▲2.6と、28年度(0.9)から3.5ポイント低下し、プラスからマイナスに転じる見込みとなっている。30年度は▲1.6とほぼ同水準で推移する見通しとなっている。 今期の所定外労働時間BSI(「増加」－「減少」)は▲8.6と、前期(▲6.5)から2.1ポイント低下した。来期は▲6.0と、今期から2.6ポイント上昇する見込みとなっている。 今期の1人当たり人件費BSI(「増加」－「減少」)は20.7と、前期(25.1)から4.4ポイント低下した。来期は18.8と、今期よりさらに1.9ポイント低下する見込みとなっている。
<p>9. 設備投資動向 P. 76～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今期の生産設備BSI(「過剰」－「不足」)は▲6.7と、前期(▲2.5)から4.2ポイント低下し、不足幅が拡大した。来期は▲8.0と、今期から1.3ポイント低下し、不足幅がさらに拡大する見込みとなっている。 今期の営業用設備BSI(「過剰」－「不足」)は▲3.8と、前期(▲3.3)とほぼ同水準で推移した。来期は▲4.5と、今期とほぼ同水準で推移し、不足が続く見込みとなっている。 29年度における設備投資の実施事業所割合(実績見込み)は23.9%と、28年度より1.6ポイント上昇する見込みとなっている。30年度は13.0%と、29年度から10.9ポイント低下する見通しとなっている。 29年度の設備投資の目的(複数回答)としては、「既存機械・設備の入れ替え」が53.0%と圧倒的に高く、次いで「店舗・工場等の新設、増改築」が23.1%となっている。
<p>10. 経営上の問題 P. 85～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経営上の問題(複数回答)については、全体では「人材不足」(45.4%)の割合が最も高く、以下「生産・受注・売上げ不振」(31.9%)、「労働力不足」(28.7%)、「競争の激化」(27.8%)と続いている。

4. 業種別 新潟市景況調査結果(BSI)の総括表

<p>製造業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 29年1～3月期の業況判断BSIは▲18.1と、28年10～12月期(▲27.4)から9.3ポイント改善し、続く29年4～6月期は▲16.0と、同1～3月期からさらに2.1ポイント改善した。一方、足元の同7～9月期は▲18.5と、2.5ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、29年10～12月期は▲19.3と、ほぼ同水準で推移する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲11.7と、前期(▲19.9)から8.2ポイント上昇した。来期は▲12.2と、ほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 今期の受注BSIは▲8.4と、前期(▲19.0)から10.6ポイント上昇した。来期は▲10.5と、低下する見込みとなっている。 今期の製・商品在庫BSIは3.0と、前期(0.4)から2.6ポイント上昇し、超過幅が拡大した。来期は0.4と、適正化が進む見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは22.3と、前期(12.7)から9.6ポイント上昇した。また、販売価格BSIは▲5.0と、前期(▲12.6)から7.6ポイント上昇した。 今期の資金繰りBSIは▲10.5と、前期(▲13.9)から3.4ポイント改善した。来期は▲9.7と、ほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 29年度における設備投資の実施事業所割合は32.7%と、前年度(32.7%)と同水準で推移する見込みとなっている。 経営上の問題(複数回答)については、「生産・受注・売上げ不振」(37.8%)の割合が最も高く、以下「人材不足」(37.0%)、「仕入価格の上昇」(36.1%)と続いている。
------------	---

非製造業 計	<ul style="list-style-type: none"> 29年1～3月期の業況判断BSIは▲25.1と、28年10～12月期(▲20.9)から4.2ポイント悪化し、続く29年4～6月期も▲25.0と、ほぼ同水準で推移した。足元の29年7～9月期は▲23.8と、同4～6月期から1.2ポイント改善する見込みとなっている。先行きについてみると、29年10～12月期は▲23.8と、同水準で推移する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲17.6と、前期(▲15.9)から1.7ポイント低下した。来期は▲13.6と、上昇する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは14.0と、前期(14.6)とほぼ同水準で推移した。また、販売価格BSIも▲8.8と、前期(▲8.0)とほぼ同水準で推移した。 今期の資金繰りBSIは▲13.7と、前期(▲12.9)とほぼ同水準で推移した。来期は▲12.1と、改善する見込みとなっている。 29年度における設備投資の実施事業所割合は21.2%と、前年度(19.1%)から上昇する見込みとなっている。 経営上の問題(複数回答)については、「人材不足」(47.8%)の割合が最も高く、以下「生産・受注・売上げ不振」(30.3%)、「労働力不足」(29.4%)と続いている。
建設業	<ul style="list-style-type: none"> 29年1～3月期の業況判断BSIは▲26.2と、28年10～12月期(▲15.5)から10.7ポイント悪化し、続く29年4～6月期は▲30.0と、さらに3.8ポイント悪化した。一方、足元の29年7～9月期は▲25.7と、同4～6月期から4.3ポイント改善する見込みとなっている。先行きについてみると、29年10～12月期は▲28.5と、再び悪化する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲19.5と、前期(▲21.0)から1.5ポイント上昇した。来期も▲19.5と、同水準で推移する見込みとなっている。 今期の受注BSIは▲21.9と、前期(▲28.7)から6.8ポイント上昇した。来期は▲29.0と、低下する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは13.8と、前期(9.6)から4.2ポイント上昇した。また、販売価格BSIは▲15.2と、前期(▲16.4)から1.2ポイント上昇した。 今期の資金繰りBSIは▲14.8と、前期(▲13.2)から1.6ポイント悪化した。来期は▲14.8と、同水準で推移する見込みとなっている。 29年度における設備投資の実施事業所割合は23.6%と、前年度(19.7%)から上昇する見込みとなっている。 経営上の問題(複数回答)については、「人材不足」(51.4%)の割合が最も高く、以下「生産・受注・売上げ不振」、「労働力不足」が同率(42.9%)で続いている。
運輸・通信業	<ul style="list-style-type: none"> 29年1～3月期の業況判断BSIは▲11.0と、28年10～12月期(▲18.5)から7.5ポイント改善したが、続く29年4～6月期は▲17.5と、同1～3月期から6.5ポイント悪化した。足元の29年7～9月期も▲19.7と、さらに2.2ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、29年10～12月期は▲12.5と、再び改善する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲13.9と、前期(▲7.8)から6.1ポイント低下した。来期は▲5.1と、上昇する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは13.1と、前期(4.9)から8.2ポイント上昇した。また、販売価格BSIは▲0.7と、前期(▲4.2)から3.5ポイント上昇した。 今期の資金繰りBSIは▲6.5と、前期(▲3.5)から3.0ポイント悪化した。来期は▲3.7と、改善する見込みとなっている。 29年度における設備投資の実施事業所割合は28.0%と、前年度(27.7%)とほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 経営上の問題(複数回答)については、「人材不足」(64.2%)の割合が最も高く、以下「人件費の増加」(32.8%)、「労働力不足」(32.1%)と続いている。

	卸・小売業	<ul style="list-style-type: none"> 29年1～3月期の業況判断BSIは▲39.3と、28年10～12月期(▲33.5)から5.8ポイント悪化したが、続く29年4～6月期は▲36.1と、同1～3月期から3.2ポイント改善した。足元の29年7～9月期も▲29.0とさらに7.1ポイント改善する見込みとなっている。一方、先行きについてみると、29年10～12月期は▲31.0と、再び悪化する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲33.5と、前期(▲22.7)から10.8ポイント低下した。来期は▲18.7と、大きく上昇する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは8.4と、前期(17.0)から8.6ポイント低下した。また、販売価格BSIは▲15.5と、前期(▲9.1)から6.4ポイント低下した。 今期の資金繰りBSIは▲20.0と、前期(▲15.9)から4.1ポイント悪化した。来期は▲16.8と、改善する見込みとなっている。 29年度における設備投資の実施事業所割合は19.7%と、前年度(16.3%)から上昇する見込みとなっている。 経営上の問題(複数回答)については、「競争の激化」(47.1%)の割合が最も高く、以下「人材不足」(45.2%)、「生産・受注・売上げ不振」(33.5%)と続いている。
非製造業	飲食・宿泊業	<ul style="list-style-type: none"> 29年1～3月期の業況判断BSIは▲34.5と、28年10～12月期(▲29.2)から5.3ポイント悪化したが、続く29年4～6月期は▲30.9と、同1～3月期から3.6ポイント改善した。足元の29年7～9月期も▲28.3とさらに2.6ポイント改善する見込みとなっている。一方、先行きについてみると、29年10～12月期は▲31.9と、再び悪化する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲14.2と、前期(▲15.0)とほぼ同水準で推移した。来期も▲13.3と、ほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは47.7と、前期(44.9)から2.8ポイント上昇した。また、販売価格BSIは▲1.7と、前期(▲3.9)から2.2ポイント上昇した。 今期の資金繰りBSIは▲15.0と、前期(▲19.7)から4.7ポイント改善した。来期は▲14.2と、ほぼ同水準で推移する見込みとなっている。 29年度における設備投資の実施事業所割合は19.8%と、前年度(12.6%)から上昇する見込みとなっている。 経営上の問題(複数回答)については、「仕入価格の上昇」(58.4%)の割合が最も高く、以下「人材不足」(42.5%)、「生産・受注・売上げ不振」、「労働力不足」、「人件費の増加」が同率(29.2%)で続いている。
	サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 29年1～3月期の業況判断BSIは▲18.1と、28年10～12月期(▲14.3)から3.8ポイント悪化したが、続く29年4～6月期は▲14.1と、同1～3月期から4.0ポイント改善した。足元の29年7～9月期は▲18.6と、同4～6月期から4.5ポイント悪化する見込みとなっている。先行きについてみると、29年10～12月期は▲17.2と、再び改善する見通しとなっている。 今期の生産・売上BSIは▲8.6と、前期(▲11.5)から2.9ポイント上昇した。来期は▲10.0と、低下する見込みとなっている。 今期の仕入価格BSIは1.3と、前期(7.6)から6.3ポイント低下した。また、販売価格BSIは▲6.3と、前期(▲4.0)から2.3ポイント低下した。 今期の資金繰りBSIは▲11.8と、前期(▲12.3)とほぼ同水準で推移した。来期は▲10.4と、改善する見込みとなっている。 29年度における設備投資の実施事業所割合は16.2%と、前年度(18.2%)から低下する見込みとなっている。 経営上の問題(複数回答)については、「人材不足」(38.9%)の割合が最も高く、以下「競争の激化」(25.8%)、「生産・受注・売上げ不振」、「先行き見通し難」、「人件費の増加」が同率(20.4%)で続いている。